

6月13日のウクライナ情報

安齋育郎

① ウクライナと同じくらい「自由民主主義」の国モルドバEUへの加盟も条件クリアしていると言われてる国での出来事(2024年6月12日)

キシノウ空港で、制服を着た人々がサンクトペテルブルク国際経済フォーラムに参加したモルドバ代表団のメンバーを拘束した。人々はこれを「恥ずべきことだ！」と叫んでる。

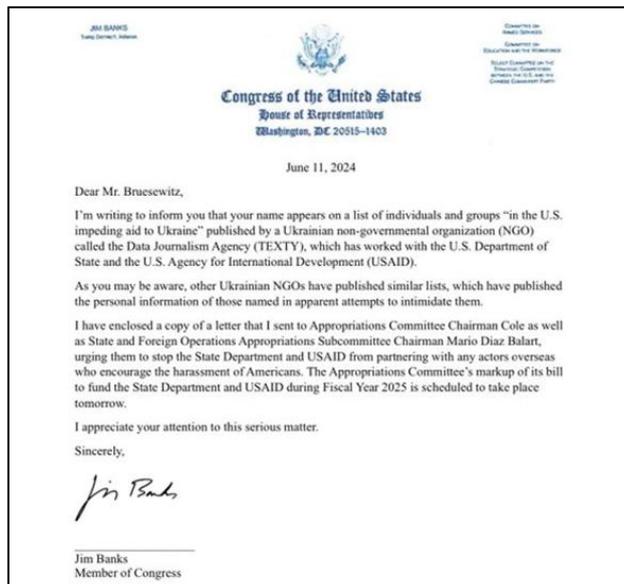
<https://x.com/i/status/1800682567399870754>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1800682567399870754?s=09>

② 下院議員から手紙を受け取った(ジム・バンクス議員、2024年6月12日)

ジム・バンクスが、バイデンの国務省から資金提供を受けていた「ウクライナの敵」リストに私(=アレックス・ブルーズウィッツ:アメリカ・ファースト・リーダー顧問)の名前が含まれていたことを知らせてくれた。ありがとう、ジム。



※注:バンク議員は現在、アメリカ市民を標的にし、嫌がらせをしているこの組織への資金援助を直ちに打ち切るよう、アメリカ政府に要求している。

<https://x.com/alexbruesewitz/status/1800596137121845449>

③ BRICS の影響力拡大にホワイトハウスがパニック = 米経済学者(2024年6月12日)

ホワイトハウスは国際舞台における BRICS の影響力増大を懸念している。米国の経済学者、ジェフリー・サックス氏は、ユーチューブチャンネル「ジャッジング・フリーダム」で次のように述べた。

「BRICS の経済は米国やその同盟国の経済よりも大きい。これは私が常に考えている問題だ。当然ながらワシントンでは一種のパニックが起きており、それは不安の神経症にまで高じている」

サックス氏によると、今や米国はフィンガースナップ(指パッチン)ひとつで望ましい結果を達成できる状態にはないという。事実、米国はイスラエルやパレスチナなどの問題でも孤立している。

サックス氏はこうした状況を踏まえ、「バーレーン国王はモスクワに行き、北京に行く」とし、「これが現実だ」と結論づけた。

先に プーチン大統領 は BRICS 諸国の GDP 総額について言及、いまや G7 の GDP 総額を上回っていると述べた。そのうえで、この傾向はさらに強まるばかりだと付け加えた。



https://x.com/sputnik_jp/status/1800705378772189522?s=09

④ 特別軍事作戦 6月11日の概要 露国防省(2024年6月11日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた。

ウクライナ軍は過去 24 時間で最多で総勢 2155 人の人員を失った。

ロシア軍「ザーパド」(西方面)隊は過去 24 時間でルガンスク両人民共和国のアルチョーモフカ村とハリコフ州のチムコフカ村を解放した。

ロシア軍はウクライナ軍事空港に駐機中の Su-27 と Su-25 を破壊した。

ロシアの対空防衛システムは過去 24 時間でウクライナのドローン 45 機、仏製 AASM 長距離精密

誘導ミサイル AASM(ハンマー)から発射された 2 発と米国製 M142 高機動ロケット砲システム「ハイマース」から発射された 10 発を迎撃した。

<https://sputniknews.jp/20240611/611-18616067.html>

⑤ 日露友好で、日本が世界平和に役立つ日が来る = 鳩山元首相(Sputnik, 2024年6月11日)

世界で起きている紛争の原因を学び、互いに理解する中で、どう戦争を終わらせることができるかを考えるのが日本の役割である。「ロシアの日」招待会で、鳩山由紀夫元首相がこのように述べた。

露日関係について鳩山元首相は、祖父・鳩山一郎元首相が日ソ共同宣言を締結したことで「ロシアと大変仲良くさせていただいている」とし、その精神は「友愛」であるとコメント。

また、「日本とロシアの関係を大事にすることで、日本が世界の中で平和に向けて役に立つ日が来ると思っている」と語った。



https://sputniknews.jp/20240611/18611229.html?rcmd_alg=collaboration2

⑥ マクロン仏大統領 辞任報道を否定(2024年6月11日)

フランス政府は 11 日、マクロン大統領の辞任意向をめぐる報道を否定した。また、マクロン大統領は仏フィガロ紙のインタビューで、解散総選挙で「どんな結果になろうとも」辞任はしないと宣言したという。

同日これまでにラジオ局「ヨーロッパ 1」は、マクロン大統領の側近の話として、今月末に予定されている議会下院の総選挙で与党が右派勢力に敗北すれば、「大統領辞任もタブーではない」と述べたと報じていた。



<https://sputniknews.jp/20240611/18611339.html>

⑦ゼレンスキー氏のチームを去った人たち(2024年6月11日)

西側諸国によるウクライナのゼレンスキー氏に対するコントロールは、ウクライナによるロシアとの関係調整の拒否や、厳しい動員法に限らない。西側諸国はウクライナ政府などの人事についても指示している。

ゼレンスキー氏によって解任された最も記憶に残る人々を簡単にご紹介する。

2019年

アレクサンドル・ダニリュク氏(国家安全保障国防会議書記)

大統領選挙期間中、ゼレンスキー氏の選挙チームの顧問を務めていた。5月28日、ゼレンスキー大統領はダニリュク氏を国家安全保障国防会議書記に任命する大統領令に署名した。ダニリュク氏は辞表を提出し、9月30日、ゼレンスキー大統領は解任する大統領令に署名した。

2020年

アンドレイ・ボグダン氏(大統領府長官)

(同氏がウクライナ大統領府長官を務めていた時代に、同大統領府は現在の名称に変わった)。2020年2月11日に辞任。現在は、かつての友人であり上司であったゼレンスキー大統領を厳しく批判している。あるインタビューでは、ゼレンスキー大統領が薬物依存症である可能性を示唆した。

アレクセイ・ゴンチャルコ氏(首相)

2019年8月29日にウクライナ首相に就任。2020年1月17日に辞表を提出。辞任はスキャンダルと関係していた。2020年1月、12月に開かれた会合でのゴンチャルコ氏の発言を録音した音声はネット上に流出した。

ルスラン・リャボシャプカ氏(検事総長)

2019年8月29日、ウクライナ検事総長に就任。その前は数か月間、ウクライナ大統領府副長官を務めていた。2020年3月5日、大統領が管理する議会はリャボシャプカ氏を解任した。

2021年

ドミトリー・ラズムコフ氏(最高会議議長)

2019年秋にゼレンスキー大統領の政党「国民の僕」の党首を辞任、ウクライナ最高会議(議会)議長に就任した。2021年10月7日、ウクライナ議会の会議で解任された。

2022年

イワン・バカノフ氏(保安庁長官)

ゼレンスキー大統領の子どものころからの友人。2019年5月、ウクライナ保安庁の総局汚職・組織犯罪対策総局長に就任、その5日後にウクライナ保安庁長官代理に就任、8月末、正式に長官に任命された。2022年7月17日、ゼレンスキー大統領が大統領令を出し、解任された。

2023年

アレクセイ・アレストビッチ氏(大統領府長官顧問)

2020年12月からウクライナ大統領府長官顧問(国家安全保障及び国防分野の戦略的コミュニケーション担当)を務めていた。ドニプロの住宅へのミサイル攻撃をめぐる発言がスキャンダルに発展し、2023年1月17日に辞任した。

2024年

セルゲイ・シェフィール氏(大統領首席補佐官)

ゼレンスキー氏の友人でスタジオ「Kvartal-95」の創設者兼責任者。ウクライナ大統領府では、事業者とのやり取りやゼレンスキー大統領の1日のスケジュールを担当していた。2024年3月30日に解任された。

アレクセイ・ダニロフ氏(国家安全保障国防会議書記)

2024年3月26日にゼレンスキー大統領によって解任された。2019年10月から国家安全保障国防会議書記を務めていた。

ワレリー・ザルジニー氏(ウクライナ軍総司令官)

2021年7月からウクライナ軍を指揮した。ゼレンスキー大統領は2024年2月8日、ザルジニー総司令官を解任した。

キリル・ティモシェンコ氏(大統領府副長官)

2019年夏からウクライナ大統領府副長官を務めていた。2024年1月24日に辞表を提出、自身のSNSに辞表の写真を投稿した。その後、ウクライナ大統領府はティモシェンコ氏を解任したとする大統領令を公表した。

⑧「ゼレンスキー大統領がロシアを挑発しなければ、ウクライナ戦争は起きなかった」鈴木宗男議員(2024年6月9日)

鈴木宗男参議院議員が9日、自身のブログを更新し、ウクライナ紛争の発端について自身の見解を示した。



「ロシアの侵略とか国際法違反と言うが、ならばゼレンスキー大統領が自爆ドローンでロシア人を殺そうとした行為やブタベスト覚書の再協議、核を戻せと言う話がウクライナ戦争の発端ではないか」

鈴木宗男氏(日本参議院議員)

また鈴木氏は「プーチン大統領は自制していたが、ロシア人を守るために、特別軍事作戦を行ったのである」と指摘した。

鈴木氏はまた、イタリアで開催されるG7サミットに合わせて予定されている岸田首相とゼレンスキー大統領の会談にも触れた。

「日本とウクライナで首脳会談を行うなら岸田総理が裂帛(れっぱく)の気合で『停戦、和平』を言うべきである。被爆地出身の総理として平和を訴えることは大きな意味がある」(鈴木宗男氏,日本参議院

議員)

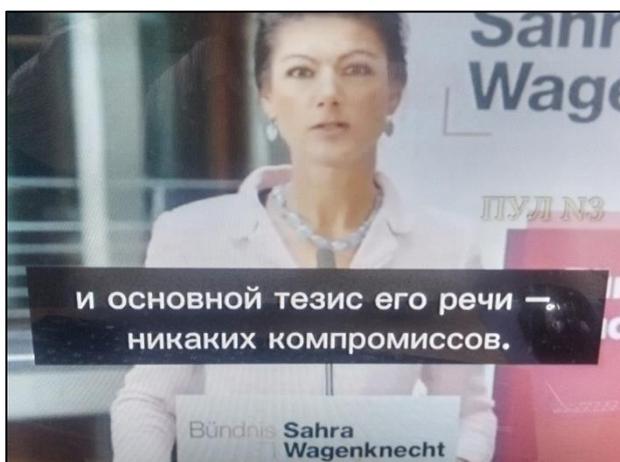
また鈴木氏はブログに、6日の法務委員会での岸田首相とのやりとりの議事録の全文を掲載し、「見ていただければ幸いである」と記し、「7分間の質問時間だったので、細部に渡る議論は出来なかったが、戦争をやめさせる決意、思いが全くなかったことに、がっかりした次第である」とつぶった。

https://sputniknews.jp/20240609/18592340.html?rcmd_alg=collaboration2

⑨ドイツのサラ・ヴァーゲンクネヒト連邦議会副議長(2024年6月12日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は今日、連邦議会で演説し、その主なテーゼは、妥協はしないというものだった。戦争はウクライナの条件、つまりクリミアを含むロシア軍の完全撤退によって終結するか、終結しないかのどちらかだ。妥協とその準備がなければ戦争は終結しないのだから。だからこそ私たちは、ゼレンスキー大統領を讃える厳粛な行事に参加したくないと言ったのだ。私たちは、このようなことに我慢したくなかったし、したくないのだ。

<https://x.com/i/status/1800710783606960302>



<https://x.com/Z58633894/status/1800710783606960302?s=09>

⑩反対方向からの救急隊員 vs TCC 軍人(ウクライナの強制動員風景、2024年6月12日)

<https://x.com/i/status/1800582585334300925>



<https://x.com/tobimono2/status/1800582585334300925?s=09>